

クイックガイド

★ドリルは付属しておりません。



安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に
本ガイドとWEB取扱説明書を必ずお読みください。
ご使用前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。

詳細は
WEB取説を
ご覧ください



ハイガー株式会社はSDGs・カーボンニュートラルの取組の一環として、紙の取扱説明書を大幅に削減いたしました。
どうぞご理解ください。



安全上のご注意

お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■表示内容を無視して、誤った使い方をしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



この表示の欄は「死亡または重症を負う恐れがある」内容です。



この表示の欄は、「軽症、物的損害、故障が生じる恐れがある」内容です。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。

!警告（製品に係る安全事項）



本機は屋外の仮設物(ビニールハウス・柵など)や植栽の支柱用の下穴や果樹や農作物の施肥用の穴など、土壤の穴あけを用途に設計されています。不測の事故を招く恐れがありますので本来の用途以外の目的には使用しないでください。

エンジンが熱いうちは、給油しないでください。

燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。

運転時、給油時は、喫煙など火気を発生させないでください。

換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。

回転している部分の近くに手または足を入れないでください。

エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

改造、分解は絶対行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。また、当社の保証サービスは一切受けられなくなります。



強制

運転中は、排気ガスに十分注意してください。

燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。

燃料をこぼさないように注意してください。所定のレベルを超えて補給しないでください。

燃料がこぼれた場合は、直ちにふき取ってください。

燃料キャップは確実に締めてください。

ドリルの取付けは確実に行ってください。

必ず両手でしっかり本体を保持してください。

エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

⚠警告 (製品に係る安全事項)

禁止	ご使用前にこの説明書をお読みになり取扱の注意事項をよく理解したうえでご使用ください。	強制	始動前点検を実施してください。
	正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。		使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
	未成年者の単独使用は禁止です。保護者等の監督下で作業してください。		燃料は混合燃料を使ってください。
	成年者でも、操作の仕方がよく分からない場合は、独自の使用をしないでください。		給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
			部品交換は、純正部品を使用してください。
			本機をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。
			定期点検整備を行ってください。
			子供の手の届かない安全な場所に保管してください。

⚠注意 (製品に係る安全事項)

禁止	指定された用途以外には使用しないでください。	強制	給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
			長期間使用しない場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。

⚠警告 (作業に係る安全事項)

禁止	身体の調子が悪い時や、判断力に影響するような酒類、薬物を服用している時は、使用しないでください。	強制	適切な間隔で休憩をとってください。
	動作中は回転部分に顔や手足を近付けないでください。		本機から離れる時は、必ずエンジンを停止してください。
	ご使用時は、使用者から15m以内は危険です。人や動物が入らないようにしてください。		
	夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くない時は使用しないでください。		
	足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。		
	燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。		危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。

⚠警告（作業に係る安全事項）



作業中に異物に当たったり、異物を絡んだ場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから異物を除去し、異常がないか調べてください。異常があった場合には、完全に補修した後でなければ本機を再始動しないでください。



強制

持ち運ぶ時は、エンジンを停止し、燃料タンクから燃料を抜き取ってください。

⚠注意（作業に係る安全事項）



機械の稼働部分に絡まるような衣服は着用しないでください。



強制

長袖、長ズボンを着用し、すべりにくい靴、手袋、保護メガネ、ヘルメット、防塵マスクなどの作業に適した服装を心掛けてください。



エンジンがかかっている状態で本機から離れないでください。

長い髪は束ね、帽子やヘルメットでカバーしてください。

本機を長時間使用しない時は、取扱説明書にしたがって保管してください。

⚠注意

燃料タンクに、2ストローク用オイルだけ、無鉛レギュラーガソリンだけを入れないでください。

燃料タンクに4ストローク用オイルを入れないでください。



各部の名称

※本取扱説明書に掲載されている写真はプロトタイプのため、本製品と仕様が異なる場合があります。



梱包部品一覧

- ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取り出し、全てのユニット・アクセサリに不足・問題がないことを確認してください。
- 製品を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。万が一損傷が見受けられた場合は、運送会社に1週間以内に連絡をしてください。
- 梱包材を慎重に検査し、使用する前に廃棄しないでください。不足している場合は、お手数ですが弊社までご連絡ください。

⚠️ 警告

不足しているものがある場合は、不足している部品を入手するまで使用しないでください。

A. 本体 (HG-DZ50)



B. 本体 (HG-DR7300)



C. 混合タンク



※通常の使用では、使用しないものもあります。
※内容物は変更になる場合があります。



※こちらはドリルを固定するものですが、ドリル側にロックピンが付属されていますので、通常はそちらをご使用ください。

※製造時期により仕様変更になる場合や部品が本体に取付済みの場合があります。

★サービス品です。予告なく終了する場合があります。

■ ご用意いただくもの

- 無鉛レギュラーガソリン
- 2ストローク用オイル JASO FBまたはFC、FD
- 漏斗（じょうご）
- ドリル
- 必要に応じて延長棒

主要諸元

モデル名	HG-DZ50	HG-DR7300
排気量	52cm ³	63cm ³
エンジン	2ストローク空冷エンジン	
出力	1.45kw 2.0HP	2.2kw 3.0HP
回転速度	8000min ⁻¹ ～9300min ⁻¹	
始動方式	リコイルスターター	
燃料	混合燃料（25：1）	
燃料タンク容量	1.0L	1.2L
シャフト径	Ø20mm	
推奨ドリルサイズ	Ø40mm～200mm	Ø40mm～300mm
三軸合成値	6.0m/s ²	7.0m/s ²

騒音レベル	95dB	110dB
互換点火プラグ	BPM7A(NGK)	
サイズ (幅×奥行×高さ)	520 × 280 × 250mm	570 × 410 × 390mm
本体重量	8.3kg	9.0kg

◎弊社は、顧客満足度100%を目指し、日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。
また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

振動障害の防止

● 1日の使用時間について

1日の作業時間は、機体または取扱説明書に表示の「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」により、厚生労働省通達で決められています。

① 10m/s ² より小さい場合		② 10m/s ² より大きい場合	
1回の連続作業時間	10分以内	1回の連続作業時間	10分以内
1日の作業時間	2時間以内	1日の作業時間	T: 1日の最大作業時間 $T=200 \div (a \times a)$ a: 周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値 (m/s ²)

● 製造時の振動レベル維持のため

- 定期的に点検、整備を行い、常に最良の状態を保ってください。
- 異常がある場合、速やかに使用を中止し、点検整備を行ってください。

組立て

⚠️ 警告

- 組立ては平坦な場所で行ってください。不安定な場所で行うと本機が倒れ、けがにつながる恐れがあります。
- 組立作業中周囲に子供やペットが近づかないよう配慮をお願いします。
- 組立後は、すべての部品が確実に取付けていることを確認してください。

ドリルの取付け（別売）

- ドリルのロックピンを取り外します。



- 2** 駆動軸にドリルを挿込み、取付穴を合わせます。



- 3** ロックピンを挿込みロックをします。



延長棒の取付け（別売）

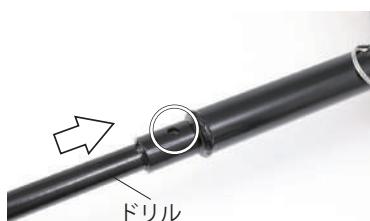
- 1** 延長棒のロックピンを取り外します。



- 2** 駆動軸に延長棒を挿込み、取付穴を合わせ、ロックピンを挿込みロックをします。



- 3** ドリルのロックピンを外し、延長棒に挿込み、取付穴を合わせます。



- 4** ロックピンを挿込みロックをします。



運転前の点検

⚠ 警告

- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時は、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料をこぼさないように注意してください。所定のレベルを超えて補給しないでください。
- ・燃料がこぼれた場合は、直ちに拭き取ってください。
- ・燃料は、無鉛レギュラーガソリンと2ストロークエンジンオイルの混合燃料を使用してください。ガソリンだけで運転するとエンジンが焼き付きります。
- ・混合燃料は、一度に使い切るだけ作ってください。

⚠ 警告

- ・燃料キャップは確実に締めてください。
- ・長期間使用しない場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
- ・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
- ・弊社は、燃料の販売はしておりません。必ず別途燃料をご準備ください。
- ・燃料タンクに、2ストローク用オイルだけを入れないでください。
- ・燃料タンクに4ストローク用オイル、チェンオイルを入れないでください。



混合燃料25:1の作り方

市販の25：1～50：1というような幅を持たせた混合燃料やその他使用範囲のある混合燃料は、絶対に使用しないでください。
エンジン焼き付きの原因になります。

★必ず指定のオイルを指定された割合で混合してください。

- 1** • 無鉛レギュラーガソリン
• 2ストローク用オイル JASO FBまたはFC、FD
• 漏斗(じょうご)
• 混合タンク(付属)
を準備します。
- 2** 無鉛レギュラーガソリン25に対し2ストローク用オイル1の割合で混合燃料を作ります。

- 3** 混合タンクの右側に①無鉛レギュラーガソリンを"5"の位置まで入れた場合、左側に②オイルを"5"まで入れます。



- 4** 混合タンクのキャップをしっかりと閉め、混合タンクを振り、カクハンします。

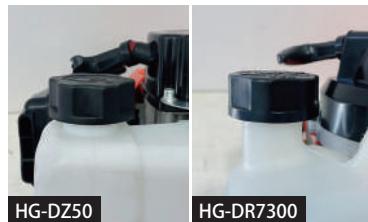
燃料の点検・補充

燃料の量を点検し、不足している場合は補給します。

■燃料の給油

- 1** 混合燃料(25:1)を準備します。(「混合燃料25:1 の作り方」参照)

- 2** 燃料タンクキャップ面を上にして開けます。



- 3** 混合燃料(25:1)を、少しづつこぼさないようジョッキや漏斗(じょうご)等を使い給油します。

- 4** 給油が終わったら燃料タンクキャップをしっかりと閉めます。閉めがあまいと漏れの原因となります。

エアクリーナーの点検

エアクリーナーのフィルタの汚れを確認します。汚れたままだとエンジンがかかりません。(点検方法は点検整備・清掃の仕方「エアクリーナーの点検」参照)



各部のネジの緩みの点検

ハンドル固定ボルト、ギヤケース固定ボルト、リコイルカバーのネジ、ロックピンなど各部のネジ類の緩みがないか確認します。

ドリルの点検

ドリルの状態を点検し、不具合がある場合は新しいドリルに交換します。

⚠️ 警告

- ドリルを点検する時は、必ずエンジンを停止してください。
- ドリルの交換は、手袋着用の上、行ってください。

- 1** ドリルの緩み、ひび割れ、曲がり、欠け、摩耗がないか点検します。

不具合がある場合は、新しいドリルに交換してください。



ギヤケースの点検

ギヤケース周りにオイル漏れやギヤケースの破損がないか点検します。



運転操作の仕方

⚠️ 警告



禁止

- 燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
- 換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触るとやけどすることがありますので高温部に触れないでください。
- 回転している部分の近くに手又は足を入れないでください。



強制

- 必ず両手でしっかりとハンドルを保持してください。
- 平坦な場所で作業を行ってください。
- エンジン始動後、異常を感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。
- 本機から離れる時は必ずエンジンを停止してください。
- 少しの移動でもエンジンを停止し、ハンドルを持って運搬してください。

⚠️ 注意

エンジンを始動する時は、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

エンジンのかけ方

⚠警告

エンジン始動と同時にドリルが回転する場合があります。
十分ご注意ください。

■エンジンが冷えている時のかけ方

※外気温には関係なく、エンジンそのものが冷えている場合です。翌日の再始動などがこれに当たります。

- 1 エンジンスイッチをON
「|側」にします。



- 2 プライマリーポンプに
燃料が溜まるまで押し、
リターンパイプに燃料
が流れることを確認し
ます。



- 3 チョークレバーを「OFF
側」にします。



HG-DR7300の場合は
燃料タンクを左側にし
て、チョークレバーを右
が「OFF側」です。



- 4 本体をしっかりと保持し、
リコイルスターター口
ープを引きります。



※ロープを引き出すと止まる位置があるので、そこから素早く引きます。おおよそ60~70cm引きます。引きが少ないとエンジンはかかりません。

⚠注意

チョークレバーを「OFF側」の状態で、リコイルスター
ターを引き続けると燃料を吸い込みすぎて、エンジン
が始動しにくくなります。

- 5 初爆…「ブルンッ」というエンジンがかかりそうな音が一
回だけ起こるまで、最大5回繰り返します。

⚠注意

- ・ロープを最後まで引き切らないでください。
- ・引いたリコイルスターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。

リコイルの引き方ポイント

※写真は、別機種



①②良い例：片手でグリップをしっかり押さえ、約70cm
真っ直ぐ引いている。

③悪い例：穴に対してロープを真っ直ぐ引かずに斜め
に引くと、抵抗になりエンジンがかかりにくく、ロープが摩擦で切れます。

●初爆が確認できた場合

- 1 チョークレバーを「ON
側」にします。



HG-DR7300の場合は
燃料タンクを左側にし
て、チョークレバーを左
が「ON側」です。



- 2 リコイルスターを素早く数回引きます。

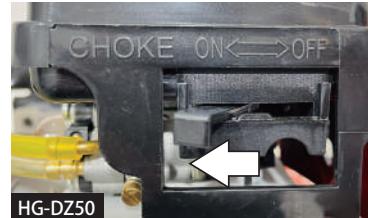
※エンジンが冷えている時や燃料切れで補充した時は、
10回以上ロープを引くことでエンジンがかかりやすくな
ります。

- 3 そのまま暖気運転を30秒程度行います。この時、ドリル
が回転する場合は、アイドリングの調整を行ってください。
(点検整備・清掃の仕方「アイドリングの調整」参照)

- 4 エンジンが止まりそうなら、エンジンを一旦止め、キャブ
レターの調整を行います。(点検整備・清掃の仕方「キャ
ブレターの調整」参照)

●初爆と同時に始動した場合

- 1 チョークレバーを「ON側」にします。



- 2 そのまま暖気運転を30秒程度行います。この時、ドリルが回転する場合は、アイドリングの調整を行ってください。(点検整備・清掃の仕方「アイドリングの調整」参照)

- 3 エンジンが止まりそうなら、エンジンを一旦止め、キャブレターの調整を行います。(点検整備・清掃の仕方「キャブレターの調整」参照)

■エンジンが温まっている時のかけ方

※外気温には関係なく、エンジンそのものが温まっている場合です。再始動などがこれに当たります。

- 1 エンジンスイッチを ON 「|側」にします。



- 2 プライマリーポンプを繰返し押します。(5回前後)リターンパイプに燃料が流れることを確認します。



- 3 チョークレバーを「ON側」にします。



- 4 本機をしっかりと保持し、リコイルスターを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから真っすぐに素早く60~70cm引張ります。エンジンがかかるまで数回繰り返します。※引く距離が短いとエンジンはかかりません。

△注意

- ・ロープを最後まで引き切らないでください。
- ・引いたリコイルスターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。

- 5 エンジンがかからない場合は、運転操作の仕方の「エンジンが冷えている時のかけ方」を行ってください。

エンジンの回転数の上げ方

アイドリング調整をすることで、エンジンの回転数を上げることができます。(点検整備・清掃の仕方「アイドリングの調整」参照)

エンジンの止め方

- 1 エンジンスイッチを OFF 「○側」にします。



エンジンが止まらない

振動等で配線端子（コネクタ）が緩んだり、抜けたりするとエンジンが止まらなくなります。あわてずに、端子を確認し、強く挿込んでください。運転前に配線を確認する癖をつけることで、トラブルを未然に防ぐことができます。



穴掘り作業の仕方

⚠ 警告



禁止

- ・身体の調子が悪い時は、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。
- ・動作中はドリルや回転部分に顔や手足を近づけないでください。
- ・ご使用時は、使用者から15m以内は危険です。人や動物が入らないようにしてください。
- ・石、コンクリート、金属、など硬質な物がある場所では使用しないでください。
- ・夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くない時は使用しないでください。
- ・足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。
- ・作業中に異物に当たったり、異物が巻きついた場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから異物を除去し、ドリルに異常がないか調べてください。異常があった場合には、完全に補修した後でなければ本機を再始動しないでください。
- ・燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。
- ・作業中、先端部分をひざの高さより上に上げないでください。
- ・急傾斜地では使用しないでください。



強制

- ・適切な間隔で休憩をとってください。
- ・本機から離れる時は、必ずエンジンを停止してください。
- ・危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
- ・少しの移動でもエンジンを停止し、燃料タンクから燃料を抜き、ハンドルを持って運搬してください。
- ・しっかりとハンドルを握って操作してください。

作業手順

- 1 作業場所の石や空き缶、木片、障害物を取除きます。
- 2 エンジンを始動します。(運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照)

⚠ 注意

始動時は、ドリルを浮かせ気味にしてください。
ドリルを地面に強く押し付けたまま始動すると、反力で本機が振られ、身体に当たる危険があります。

- 3 エンジンをかけた後、しっかりとハンドルを握ります。



- 4 アクセルレバーを握ると、ドリルが回転し始めます。

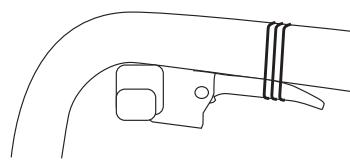


アクセルレバー

- 5 しっかりとハンドルを握り、下向きに押さえながら、穴掘りを始めます。

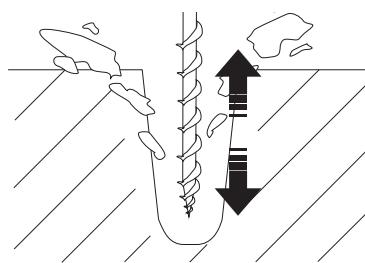
⚠ 警告

- ・始動中は、絶対にハンドルから手を放さないでください。重大な事故の恐れがあります。
- ・アクセルレバーを紐で縛ったり、クリップで固定したりしないでください。大変危険です。



- 6 ドリルが10cm前後地面に入った後、更にハンドルを強く押して掘り下げます。

- 7 深堀り時は、時々ドリルを引き上げ、廃土しながら徐々に掘り下げていきます。



- 8 穴掘り完了後、地中からドリルを引き上げ、アクセルレバーを放し、エンジンスイッチを停止します。

- 9 ドリルの回転が完全に停止してから、地面に置いてください。

⚠ 注意

- ・急激な掘り込みはドリルの破損やエンジン等の耐久性を損なう恐れがあります。
- ・掘り込み速度が速いと過負荷になり、エンジンが停止する場合があります。
- ・本機は、逆回転はできません。

作業の中止

作業を中断する時は、その都度アクセルレバーを放してください。燃料の節約、エンジンの寿命にも好影響を与えます。



アクセルレバー

掘り込み作業の終了

1 ドリルを回転させながらハンドルを上に持ち上げ、ドリルを土から抜きます。

2 アクセルレバーを放し
エンジンを低速運転に
します。



3 エンジンスイッチをOFF「○側」にします。

⚠ 注意

- ドリルが地中で石などに当たった場合は、無理に進めないでください。ドリルが破損します。
- 本機は、逆回転はできません。万が一ドリルの回転が止まり抜けなくなった場合は、エンジンを切リスコップ等で周りの土を掘り、取除いて掘り出してください。

POINT ワンポイント

大きい穴を掘る場合は、はじめは径の小さいドリルで掘り進め、次に大きいドリルで行うとスムーズに掘り込みができます。

点検整備・清掃の仕方

⚠ 警告

- 点検整備をする時は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。
- 点検整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。

⚠ 注意

- 作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。
- メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

エアクリーナーの点検

エアフィルタの汚れを点検し、汚れがひどい時はよく洗います。

1 エアクリーナーカバーの六角ボルト(HG-DR7300の場合はバックル)を外し、カバーを取り外します。



2 エアフィルタの汚れを確認します。



3 エアフィルタの汚れがひどい場合は、中性洗剤入りのぬるま湯で丁寧に洗い、水ですすいだあとよく乾燥させます。

4 取外しと反対の手順で取付けます。

点火プラグの点検

点火プラグの電極を点検し、汚れている場合は、ワイヤブラシで清掃してください。

■ HG-DZ50の場合

1 プラグキャップを取り外します。※プラグキャップを取り外す際、左右にグリグリ回しながら引き抜くことで簡単に取外すことができます。



対象部品	点検項目	運転前の点検	初回は10時間運転後	3ヵ月毎または50時間運転毎	6ヵ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	掲載ページ
燃料	燃料量、漏れ	●					運転前の点検「燃料の点検・補充」
エアクリーナー	清掃			●			点検整備・清掃の仕方「エアクリーナーの点検」
	交換					●	点検整備・清掃の仕方「エアクリーナーの点検」
点火プラグ	清掃				●		点検整備・清掃の仕方「点火プラグの点検」
	交換					●	点検整備・清掃の仕方「点火プラグの点検」

※市販品をご購入の場合は、外した点火プラグを持参し、大きさ・長さを確認しあげください。

2 取外しと反対の手順で取付けます。

※点火プラグは、点火プラグキャップにしっかりとはめてください。はめ込みがあまいと点火しません。

キャブレターの調整

エンジンが吹き上がらない、アクセルを握ってもエンジンが止まる場合は、キャブレターを調整を行います。

1 マイナスドライバーを準備します。

2 調整ネジを回します。



3 現時点の位置から反時計回りに1回転させることで、吹き上がりが良くなります。



4 上記で調子が悪くなった場合は、時計回りに2回転させることで、良くなります。



⚠ 注意

回転位置が分からなくなったら場合は、時計回りに止まるまで回し、その位置から反時計回りに1回転半で元の位置に戻ります。そこから再度調整をしてください。

アイドリングの調整

エンジン始動時にドリルが回転したり、アクセルレバーを放し、アイドリング状態にしてもドリルが回転する場合は、アイドリング調整を行います。

1 アイドリング調整は、付属のドライバーで調整スクリュを回します。



2 付属のプラグレンチで、反時計回りに回して点火クプラグを取り外します。



※振動で緩まないように固くなっています。プラグレンチを叩くようにすると外れやすくなります。(手袋着用してください。)

■ HG-DR7300 の場合

1 カバーの六角ボルトを外し、カバーを取り外します。



2 プラグキャップを取り外します。※プラグキャップを取り外す際、左右にグリグリ回しながら引き抜くことで簡単に取り外すことができます。



3 付属のプラグレンチで、反時計回りに回して点火クプラグを取り外します。



※振動で緩まないように固くなっています。プラグレンチを叩くようにすると外れやすくなります。(手袋着用してください。)

■ HG-DZ50/HG-DR7300 共通

1 電極の周辺に、オイルや堆積物が付着している場合はワイヤーブラシで清掃します。



- 2** アイドリング時に調整スクリュを反時計回りに回すと、回転が下がりドリルが回転しなくなります。調整スクリュを時計回りに回すと回転数が上がります。



ワンポイント

調整していくうちに、どれだけ回したかがわからなくなることがあります。その場合は、一旦右へ全閉に回し、そこから一回転半左に回した位置が出荷時の基本位置となります。

長期間使用しない時

本機を2週間以上使用しない時

- 1** 燃料タンクから燃料を抜きます。

- 2** エンジンをかけ、燃料切れで停止するまで回し、キャブレター内の燃料を使い切ります。余った燃料は、密封容器に入れ、冷暗所に保管し、1ヵ月以内に使い切ってください。(燃料は使う前によくカクハシしてから使用してください。)

- 3** エンジンスイッチをOFF 「○側」にしてください。



- 4** チョークレバーを「ON側」にします。



- 5** 各部ボルトの破損、腐食、緩みの点検をします。

- 6** 湿気の少ないところで、チリやホコリが付着しないようにカバーなどをかけて保管してください。

- 7** 子供の手の届かない安全な場所に保管してください。

※詳細はWEB取説をご覧ください。

保証内容について

2025.10現在

本規約は、ハイガー（以下「弊社」とする）を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。

弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますのでご安心ください。

返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

1. 保証の期間

商品発送日（ご来店引取の場合ご来店日）から1年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は6ヵ月といたします。

保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。

商品発送日より7日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

2. 保証の適用

・お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。（以下、この無料修理を「保証修理」とする）往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。

・保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。

・本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定ができるない場合、保証が受けられない可能性があります。

・本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点では保証は無効となります。

3. 保証適用外の事項

(1) 純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合

(2) 保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合

(3) 一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合

(4) 取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合

(5) 示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合

(6) 弊社が認めていない改造をされたもの

(7) 地震、台風、水害等の天災により生じたもの

(8) 注意を怠った結果に起きたもの

(9) 薬品、雨、電、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの

(10) 使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象（退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等）

(11) 機能上影響のない感覚的な現象（音、振動、オイルのにじみ等）

(12) 弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品

(13) 使用することで消耗する部品または劣化する部品（ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ペアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーター・ブラシ、チェーン、バルブ内部の部品、バネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャーピング等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリ、点火プラグ等）

(14) 保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等

(15) 商品を使用できなかったことによる損失の補填（休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等）

4. 別扱いの保証

部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

5. 保証修理の受け方

まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡をください。

またはお近くの修理協力店へご連絡をしてください。

症状・使用状況を伺い、手順方法をご案内させていただきます。

6. 注意事項

・動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料やオイル、水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合があります。

・部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただくことがあります。

・仕様変更などにより同時交換部品が発生する可能性があります。

・仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しかできない場合があります。

・生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。

・無在庫販売者（送り先が毎回違う購入者）の場合、販売者より購入した商品の場合、保証は無効となります。

また発覚次第販売者への措置を取らせていただきます。

■アフターサービスについて■

1. 販売機種が対象となります。※弊社で商品をお買い上げの方に限られています。

2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。

3. 保証期間（1年間）を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。

4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。

5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。



〒370-0603

群馬県邑楽郡邑楽町中野5298-1

ハイガーオフィシャル検索
<https://haige.jp>